



大分雄城台×大分豊府高

野球部OB会初の親睦試合

60 県内外の
人 白熱の展開、交流充実

【大分】大分市の大分雄城台高、大分豊府高の両野球部OB会は9月30日、会の活動を盛り上げる起爆剤にしようと、同市横尾のレゾナックスタジアムで親睦野球大会を初めて開催した。両校の約60人が参加。北海道や東京など県外からも集まり、交流を深めた。両校OB会は毎年の開催を目指している。

両校OB会とも、発足から約10年がたち、総会など事業への参加者減少や、会員間のつながりが弱くなっていくことが課題となっており、OB会を設立し、活動の広がりや事務局を企画した。



OB会の活性化を願う大分雄城台高の大津留俊治会長（左）と大分豊府高の工藤浩二会長



白熱の試合。投手は北海道から駆け付けた大分豊府高2期生の麻生英義さん

開会式で大分雄城台高の大津留俊治OB会長(66)は「この場をきっかけに会員同士の親睦と交流を深め、この輪を広げたい」とあいさつした。

試合は軟式で9イニング制。投手は30歳以上など独自のルールを加えた。現役で野球をしている会員を中心に、久しぶりに野球をする会員も出場した。親睦が目的だったが、試合が始まると現役高校部員に負けないプレーも出て、白熱した展開となった。九回裏、1点を追いかける大分雄城台高OB会が2点を上げ、逆転サヨナラ勝ちした。

両校OB会は今までも、寄付金や試合の応援などで現役部員を支援してきた。会が再び盛り上がることで支援の充実や、母校の発展につなげようとしている。

大分豊府高の工藤浩二OB会長(52)は「OB会に来て、昔話で盛り上がるだけでもいい。より多くの会員が興味関心を持ち、参加しやすくなる取り組みをしていきたい」と話している。(河野仁志)